

おわりに

本外部評価書を手にした所内の教員・職員そして学生の皆さんにとって、本書は多様な活用の仕方があるであろう。私はこれを外部の専門家・識者からいただく、防災研究所という組織の「総合的な実力と健康度」に関する一つの診断書として最大限に活かすことができるのではないかと考えている。

防災研究所は、平成8年の改組を契機として「災害の学理の研究および防災に関する総合的研究」を目指す研究所として発展を図って今日に至っている。この間、私達一人ひとは防災研究所の構成員として、自身の目標を達成し、社会からの期待に応えるために日々努力しているつもりである。そして中から見た防災研究所について、各自各様それなりの自画像を描いているであろう。また防災研究所には、組織全体として自身の達成度を総合的に自己点検するために特別の委員会が設けられている。しかしそれだけでは防災研究所の全貌を正確にとらえたことにはならない。防災研究所を少し外側から見て自身の健康度を診断してもらうことも欠かすことができない重要な視点であるはずである。

このように考えると本外部報告書は、私達とは視点の異なる立ち位置から、研究所が行ってきた研究・教育活動、対外交流・社会的貢献について現状を診断いただいたもので、今後、私達が改善を図っていく上で大変貴重なご意見とアドバイスが詰められた情報の宝庫である。事実、この宝庫には、防災研究所が現状にけっして甘んじることなく、さらなる高みを目指すべきとの叱咤激励と苦言も含まれている。来年(平成22年)度から、京都大学は中期目標・中期計画の第二期に入るが、それと呼応して京都大学付置研究所である防災研究所は、「全国共同利用・共同研究拠点」として、新たな質的転換とスケールアップを目指すこととなる。石原前所長と旧執行部から新たに引き継いだ新執行部としても、防災研究所をさらに生き生きと輝いた組織にするために本書を最大限に利用させていただく所存である。

最後に本報告書を作成するにあたり、ご協力をいただいた外部評価委員の各位に心から御礼を申しあげます。

平成21年6月

岡田 憲夫
(防災研究所所長)